

経理兼スポーツ協会担当 松山 博保
顧問 服田 高

4. 主な大会・開催について

当協会では年間事業計画の日程、開催要領等を会員に周知していますが、思い出に残る主な大会としては、昭和63年7月31日に松本市で開催の第1回長野県グラウンド・ゴルフ交歓大会、同年8月10日に鹿児島県指宿市で開催された第2回全国グラウンド・ゴルフ交歓大会に長野県協会から23名の会員が参加しました。

平成2年5月6日には第3回全国グラウンド・ゴルフ交歓大会が松本市陸上競技場で行われ、北海道から沖縄まで全国から1,100人が参加しましたが長野県会員の参加者は350人でした。

北信越ブロックGG交歓大会

毎年、北信越ブロックGG交歓大会を開催していますがこの大会は福井県、石川県、富山県、新潟県、長野県の5県で輪番開催しており当協会が開催担当した大会は次のとおりです。

第19回：平成21年4月26日

長野市南長野運動公園 757名参加

この年行われました善光寺ご開帳に花を添えた大会となり大成功でした。

第24回：平成26年5月25日

松本市広域公園ターミナルゾーン 496名参加

第29回：令和元年5月26日

長野市運動公園（野球場、陸上競技場、運動広場の3つの会場使用）550名参加

5. ホールインワン基金の設立

当協会では開催する全ての大会を対象に、ホールインワン達成者から1本達成につき100円の基金を募るホールインワン基金を設立しています。募金は福祉団体等に支援しています。

募金額、寄付額の明細は日本GG協会に所定用紙で報告しています。

6. 県グラウンド・ゴルフ会員登録の現況

当GG協会の会員の年会費は1000円で内500円は日本GG協会会費とし、どこの大会にも参加できる資格を有することとして会員増強に努めています。

日本協会の会員登録数は令和3年4月時点で144,645人ですが長野県会員は524人全国では北海道、富山県につき下から3番目であり退会する会員が増えている現状です。

高齢化・病気などによる会員減少傾向にどの県も同じ悩みを抱えていることと思います。

常設のグラウンド・ゴルフ場設置の期待

北から南、広大な大地の長野県、会場に足を運ぶことが困難な会員が増えてきていることから、高齢者の健康維持の一手として身近な所でいつでも誰とでも気軽にプレーが出来る常設のグラウンド・ゴルフ場があればグラウンド・ゴルフを楽しむ人が人を呼び、会員増につながるものと期待し関係部署に働きかけをしています。

.....

人生100年時代と言われる今日、高齢になられても介護や医療とは無縁で社会に貢献できる高齢者が住む長野県となるよう、長野県GG協会はグラウンド・ゴルフの普及に取り組んでいます。

II 学校体育団体

長野県中学校体育連盟

昭和37年、第1回長野県中学校総合体育大会が長野県教育委員会、長野県市町村教育委員会連絡協議会、長野県中学校長会、そして長野県体育協会の4者主催により開催されました。それから60年、競技種目は9から19に増え、県中体連はその時々状況により様々な変遷をたどりつつ、今日に至りました。

県体育協会へは昭和45年に中体連としての加盟が承認され、現在は県総合体育大会の共催団体として、中学生のスポーツ活動に対し物心両面において多大なご支援

をいただいております。

以下に、昭和63年以降の中学校体育連盟のあゆみをまとめます。

【昭和63年度】

- ・中学生の国体参加が始まり、体操1、陸上1、水泳7、フィギュアスケート2の計11名が参加。
- ・全国中体連が（財）日本中学校体育連盟となる。

【平成元年度】

- ・県体協主催の「ジュニア競技力向上対策会議」（年3回開催）に高体連と共に参加。

【平成2年度】

- ・第1回長野県中学校駅伝競走大会を開催。

【平成3年度】

- ・全国中学校体育大会にて塩田中女子ソフトテニス部が優勝、個人戦でも準優勝を果たす。
- ・県中体連30周年記念式典開催。
- ・全中スケート大会が軽井沢町で開催され、軽井沢中が男子総合優勝。
- ・全中スキー大会が野沢温泉村で開催。女子クロスカントリーのリレーで山ノ内中が優勝。

【平成4年度】

- ・第13回北信越中学校総合競技大会を開催。
- ・全中卓球大会を松本市で開催。
- ・全中大会にて高森中男子テニス部が個人優勝。

【平成5年度】

- ・全中スケート大会にて茅野北部中が女子総合優勝、個人で外ノ池亜季が長距離2冠を達成。

【平成6年度】

- ・全中大会にて塩田中女子ソフトテニス部が3年ぶり2度目の優勝。

【平成7年度】

- ・全中大会にて塩田中女子ソフトテニス部が2連覇を達成。
- ・全中スケート大会にて川上中の野本繁が大会記録で優勝し、現時点で男女全ての種目の大会記録を長野県が独占する。

【平成8年度】

- ・裾花中女子バレーボール部が全中初優勝。

【平成9年度】

- ・第18回北信越中学校総合競技大会を開催。
- ・全中大会にて女子柔道56kg級で徳久瞳（下諏訪中）が優勝。体操女子種目別平均台で高橋里沙（更北中）が優勝。

【平成10年度】

- ・全中大会にて陸上男子800mで塚田直也（裾花）が優勝、1500mでも3位に入賞。

【平成11年度】

- ・水泳、ハンドボール、相撲、スケート・アイスホッケーの全中大会を県内で開催。
- ・全中大会にて陸上男子800mで上嶋圭（梓川中）、1500mで藤森憲秀（山辺中）が優勝。

【平成12年度】

- ・平成13年度全中スキー大会実行委員会設立
- ・全中大会にて福島中相撲部が初優勝。

【平成13年度】

- ・県中体連40周年記念式典開催
- ・全中大会にて柔道44kg級で山岸絵美（丘中）、70kg級で清水千晶（旭町中）が優勝

- ・全中スケート大会において小平奈緒（茅野北部中）が500mと1000mで2冠を達成。

【平成14年度】

- ・新教育課程の完全実施に伴う学校週5日制による「土日の部活動の在り方」を検討。
- ・第23回北信越中学校総合競技大会を開催。

【平成15年度】

- ・県中学校運動部活動『長野モデル』検討委員会に本連盟会長が委員長として参加。

【平成16年度】

- ・県総体参加料（300円）徴収開始

【平成17年度】

- ・全中大会にて裾花中女子バレーボール部が2連覇、3度目の優勝。

【平成18年度】

- ・全中スキー大会を野沢温泉村で開催し、ノルディックコンバインドで渡部善斗（白馬中）が2連覇。

【平成19年度】

- ・第28回北信越中学校総合競技大会を開催。
- ・拠点事業による10年連続開催のスタートとなる全中スケート大会を長野市で開催。



【平成20年度】

- ・サッカー、軟式野球、体操競技の全中大会を県内で開催。

【平成21年度】

- ・新型インフルエンザの流行により多くの選手が大会出場辞退。

【平成22年度】

- ・全中大会にて裾花中学校女子バレーボール部が4度目の優勝。
- ・全中スキー大会で滝沢こずえ（山ノ内中）がクラシカルで3連覇を達成。

【平成23年度】

- ・県中体連50周年記念式典開催

【平成24年度】

- ・第33回北信越中学校総合競技大会を開催。
- ・全中スキー大会において、県勢が史上初のクロス全種目制覇を達成。

【平成25年度】

- ・県勢が夏季3種目、冬季12種目を制覇。
- ・「倫理に関するガイドライン」を設け、各競技部において対応。

【平成26年度】

- ・新人大会参加料（100円）徴収開始

【平成27年度】

- ・各競技の「指導マニュアル」を作成し、県下全中学校へ配付。
- ・全中大会にて、裾花中女子バレーボール部が6度目の優勝。
- ・全国研究大会が長野市で開催。
主題：「豊かな人間性と生きる力を育む運動部活動のあり方を目指して」

【平成28年度】

- ・陸上競技、剣道の全中大会を県内で開催。

【平成29年度】

- ・課題検討委員会を設置し、大会の見直し、組織改革、財源確保を検討。
- ・全中冬季競技にて県勢が12種目で優勝。

【平成30年度】

- ・グッドコーチング賞を新設。
- ・郡市大会、地区大会の在り方を検討。



【令和元年度】

- ・台風19号の被害により、新人大会の長水大会の一部と北信大会が中止となる。
- ・11年連続となる全中スキー野沢温泉大会がスタート。
県勢が大活躍。

【令和2年度】

- ・新型コロナウイルス感染拡大により、夏季全中、北信越、県総体が開催中止。
- ・郡市あるいは地区単位での代替大会を開催。
- ・県総体冬季競技は開催できたものの、冬季全中大会が開催直前に中止が決定。

長野県高等学校体育連盟

(1) 生徒の活躍

昭和63年度以降の生徒の活躍の様子を全国高校総体の優勝数からみると、長野県のお家芸ともいえるスキー・スケートの冬季競技で素晴らしい成果を上げている。

スキー競技学校対抗では、飯山高校男子が統合前の飯山南高校時代も含めて13回の優勝を数える。中でも飯山南高校の平成10年度からの五連覇、飯山高校として平成28年度からの五連覇は特筆すべき結果である。女子でも飯山高校は11回の優勝を数え、平成10年度からと平成16年度から二回の三連覇を成し遂げている。個人では、男子15kmクラシカルで堀米光男（中野実業）が三連覇、切久保深雪（白馬）はSLで三連覇、GSLでも優勝している。

スケート競技学校対抗では、男子佐久長聖が5回、女子東海大諏訪が2回優勝、個人の優勝は上條有司（岡谷東）3、今井裕介（佐久長聖）4、林 莉輝（佐久長聖）5、女子では吉井小百合（東海大三）3、外ノ池亜希（東海大三）4、清水美映（松本深志）5となっている。

駅伝を含む夏季競技で複数回優勝を果たした選手は、陸上競技：塚原直貴（東海大三）佐藤清治（佐久長聖）高田浩二（松川）瀧澤 彩（長野）、柔道：津金 恵（松商学園）、新体操：猪又涼子（伊那西）、定通柔道：岡村秀輝（中野実業）、団体競技では、駅伝：佐久長聖、バレー

ボール：松本国際・岡谷工業、ボート競技：岡谷南が二回の優勝を飾っている。

全国総体優勝数（昭和63年度以降）

スキー	121	新体操	4
スケート	75	ボート	4
陸上	19	定通	4
レスリング	6	卓球	3
柔道	5	テニス	2
バレーボール	4	体操	2

ソフトテニス、自転車、アーチェリー、水泳、空手道、ウェイトリフティングは1回

(2) 高体連活動の概要

1) 事務局4地区持ち回り制

県高等学校体育連盟は、設立以来40年間は長野市と松本市の高等学校に事務局を置き運営されてきたが、交通網の整備、地区の振興、負担の公平化等を考慮して4地区の持ち回りとする事となった。

任期を2期4年とし、昭和63年度諏訪二葉高校からこの体制がスタートした。以下は、会長、理事長、事務局校の一覧である。

	会長	理事長	事務局
S 63～H 2	小林 仁	岡角 千明	諏訪二葉
H 3	竹内 長生	小島 功	
H 4 ～H 7	藤澤 愛僖	山浦 正孝	上 田
H 8	海沼 清美	布施 紀彦	長 野
H 9～H11	本山 綱規		

2) 事務局固定化へ

上田高校に事務局が置かれていた平成6年、常任理事会において事務局固定化が話題となるが継続審議となる。

その後、長野高校に事務局移転後の平成9年から事務局固定化について検討が重ねられた。

長期的展望に立った計画立案や継続的な業務運営といった観点から事務局を固定化し、県教育委員会や県体育協会（現スポーツ協会）に近い方が運営がしやすいということで、長野地区を事務局候補とすることを常任理事会原案とし、各地区高体連で検討を重ねた。

三年にわたる検討を経て、平成11年12月の臨時理事会において、長野高校同窓会館「金鶏会館」に事務局を固定化することが決定された。以下、現在に至るまでの事務局体制である。

	会長	理事長
H12	三沢 輝夫	笠原 浩
H13	青山 誠	
H14	佐久 信雄	青木 功
H15		
H16	酒井 陸久	
H17	諏訪 繁範	
H18	小松 茂美	加藤 博
H19		
H20	柏原 康久	小澤 健
H21	小松 茂美	
H22		
H23		鏡味 照明
H24		
H25	矢島富士雄	野口 剛彦
H26		
H27		
H28		武居 正憲
H29		
H30	北村 桂一	大谷 雅亮
R元	小林 武広	
R 2		
R 3		

3) 県大会参加枠拡大

昭和55年に大会開催基準要項改正後10年が経過する中で、幾つかの専門部より県大会出場チーム数を、地区大会の上位4チームを改めて8チームにしたいという要望が出されるようになった。大会規模の拡大にかかわる問題であり、大会は高校教育の一環として行われていることから慎重な検討が重ねられた。平成元年には検討委員会を設置し、予算・日程の問題等を調査検討し、平成2年度の総合体育大会

から団体戦のある9種目でチーム枠が増えることとなり現在に至っている。

4) 高体連の会計について

本連盟の経費の主なものは1) 学校分担金 2) 高体連登録料 3) 参加料 4) 共催負担金である。

令和3年度一般会計の予算収入額は、約7800万であり、その内訳は学校分担金1100万円、登録料1640万円、参加料1520万円、共催負担金1630万円となっており、年度当初の運営資金として約1900万円を繰り越している。

分担金・登録料・参加料の変遷

	分担金	登録料	参加料
S 63	200	300	400
H 1	300		
H 4			600
H 8	500		
H11			800
H23		400	
H25			1000
R 1		700	

(3) 今後に向けて

高体連登録者数は、昭和63年度32367名だったものが令和元年度には24847名と約7500名の減となっている。生徒数が約37000名減少したことを考えると、減少の割合は低く、全生徒に占める高体連登録者数で見ると約10ポイント上昇している。

地区大会において参加チーム数が15以下となり、予選としての試合をすることなくベスト8に入るトーナメントとなる競技、参加生徒数の減少により地区大会を廃止する競技、審判を含む競技役員の確保が困難となり2地区合同で大会を開催する競技も見られるようになっている。

今後も続く少子化、またそれに伴う学校の統廃合を見据えて、大会の在り方、高体連組織についての検討が今後の課題である。

また、令和2年度には新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、夏季高校総体が史上初の中止となり、その後の大会も多くの制約を受ける中での開催となった。大型化する台風などの災害時の対応なども含めて、危機管理体制を確立し、参加生徒・競技役員の安全を第一とした運営が求められている。

一般財団法人 長野県高等学校野球連盟

1. 昭和61年からの選手権長野大会優勝校一覧

※は初戦出場

全国高等学校野球選手権長野大会優勝校			
年	回数	学校名	選手権
昭和61年	第68回	松商学園	1回戦
昭和62年	第69回	上田	※2回戦
昭和63年	第70回	上田東	※2回戦
平成元年	第71回	丸子実業	1回戦
平成2年	第72回	丸子実業	1回戦
平成3年	第73回	松商学園	ベスト8
平成4年	第74回	松商学園	1回戦
平成5年	第75回	松商学園	1回戦
平成6年	第76回	佐久	ベスト4
平成7年	第77回	佐久長聖	2回戦
平成8年	第78回	東海大三	1回戦
平成9年	第79回	松商学園	1回戦
平成10年	第80回	佐久長聖	1回戦
平成11年	第81回	松商学園	※2回戦
平成12年	第82回	松商学園	ベスト16
平成13年	第83回	塚原青雲	ベスト16
平成14年	第84回	佐久長聖	ベスト16
平成15年	第85回	長野工業	※2回戦
平成16年	第86回	塚原青雲	1回戦
平成17年	第87回	松商学園	1回戦
平成18年	第88回	松代	2回戦
平成19年	第89回	松商学園	1回戦
平成20年	第90回	松商学園	1回戦
平成21年	第91回	長野日大	ベスト16
平成22年	第92回	松本工業	1回戦
平成23年	第93回	都市大塩尻	※2回戦
平成24年	第94回	佐久長聖	1回戦
平成25年	第95回	上田西	1回戦
平成26年	第96回	佐久長聖	2回戦
平成27年	第97回	上田西	2回戦
平成28年	第98回	佐久長聖	1回戦
平成29年	第99回	松商学園	2回戦
平成30年	第100回	佐久長聖	2回戦
令和元年	第101回	飯山	1回戦
令和2年	第102回	佐久長聖	独自大会
令和3年	第103回	松商学園	ベスト16

2. その他大会と出来事

昭和60年

- 松商学園、第73回北信越地区高等学校野球大会優勝
- 第16回明治神宮野球大会優勝

昭和61年

- 松商学園、第58回選抜高等学校野球大会2回戦敗退
- 長野県高等学校野球大会記念史Ⅲ刊行
- 野沢南、明科が加盟して92校となる

昭和62年

- 阿南、岡谷東、諏訪二葉が加盟して95校となる
- 軟式部会 上田高校加盟 阿南高校脱退

昭和63年

- ベンチ入り選手18名となる

平成元年

- 長野県で20年ぶり日米親善高校野球（対長野県選抜チーム）県営長野球場でおこなう
- 飯田風越が加盟して96校となる

平成2年

- 松商学園、第83回北信越地区高等学校野球大会優勝

平成3年

- 松商学園、第63回選抜高等学校野球大会準優勝
- 松商学園、第46回国民体育大会高校野球優勝
- 秋季北信越県大会出場校が16校になる

平成5年

- 選手権長野大会4回戦まで県内4地区で同時開催
- 第75回選手権大会開会式全校参加

平成7年

- 県選抜チーム台湾遠征

平成8年

- 蘇南（軟式より）、松本第一（再加入）の2校が加盟し98の加盟校となる
- 佐久長聖、第95回秋季北信越地区高等学校野球大会優勝
- 軟式選手権地区大会の地区割りが北信越大会に変更になる（長野・新潟・富山・福井の4県となる）

平成9年

- 佐久長聖、第69回選抜高等学校野球大会出場
- 長野県高等学校野球大会記念史Ⅳ刊行

平成10年

- 第80回全国高等学校野球選手権長野大会のシードを春季北信越県大会の上位8校とした（2次抽選廃止）

平成11年

- 東海大三、第71回選抜高等学校野球大会出場
- 第100回春季北信越地区高等学校野球記念長野大会各地区6校計24校で開催、予選で復活決定戦を実施

平成12年

- 長野商業、第72回選抜高等学校野球大会2回戦敗退
- 点差によるコールド（5回10点、7回7点）適用
- 日米親善試合が長野オリンピックスタジアムで開催

平成15年

- 第85回全国高等学校野球選手権記念長野大会大会歌の独唱を実施

平成16年

- 第86回全国高等学校野球選手権長野大会準々決勝を1球場2日間で実施

平成17年

- 地球環境が加盟し硬式加盟校数99校となる
- 上田西が加盟し軟式加盟校10校となる

- ・日米親善試合が松本市野球場にて開催

平成19年

- ・創造学園、第79回選抜高等学校野球大会出場
- ・選手権大会が96校参加で開催
- ・長野県高等学校野球大会記念史V刊行
- ・長野日大、第117回秋季北信越地区高等学校野球大会優勝

平成20年

- ・長野日大、第80回選抜高等学校野球大会ベスト8
- ・丸子修学館、第80回選抜高等学校野球大会出場

平成21年

- ・秋季北信越地区予選会前に各地区で予備戦実施

平成23年

- ・4月26日をもって一般財団法人 長野県高等学校野球連盟として新たに発足

平成24年

- ・地球環境、第84回選抜高等学校野球大会出場
- ・秋季北信越県大会から各地区6校24校で開催

平成26年

- ・東海大三、第86回選抜高等学校野球大会出場

平成27年

- ・松商学園、第87回選抜高等学校野球大会出場
- ・第60回全国軟式選手権、上田西ベスト4 国体出場

平成28年

- ・日本ウェルネス信州筑北キャンパス加盟

平成29年

- ・長野県高等学校野球大会記念史VI刊行

平成30年

- ・佐久長聖、第100回全国高等学校野球選手権記念大会1回戦甲子園史上初のタイブレークを制す

令和2年

- ・コロナウィルス感染症拡大に伴い142回春季北信越大会すべてが中止となる

令和3年

- ・上田西、第93回選抜高等学校野球大会出場
- ・1年ぶりに春季大会から入場料値上げで大会開催

III 郡市体育団体

南佐久郡体育協会

1 発足までの経過

大正初期、郡青年团组织結成に伴い体育事業が開始され、大正6年に第1回南佐久郡青年団体育大会が開催された。昭和4年白田野球協会が創立され、翌5年4月27日に第1回南北佐久野球大会が行われた。

昭和22年4月1日、旧23ヵ町村で構成する南佐久郡体育協会が発足した。同じ年、田口体育協会が、翌23年には青沼・白田体育協会が発足している。

昭和23年4月1日には、長野県体育協会に加盟することになった。昭和36年4月1日に、佐久市旧野沢、中込の脱退（佐久市へ合併）により3町5村からなる組織となった。その後合併等を経て、2町4村体制となっている。

2 創立当時（昭和20年代）

太平洋戦争が日本の敗戦という結果で終わった昭和20年代初期は、人心が定まらない世相の中で、スポーツによる刷新をはかろうと、南佐久郡体育協会を前記のとおり発足させ、各種の競技大会を開催した。その先駆として、昭和23年9月4日には、戦時中中止となっていた南北佐久野球大会が、第3回大会として行われた。9月19日には、白田小校庭で第1回南佐久郡陸上競技大会が開

催され、優勝は川上村であった。10月16日には第1回排球・卓球大会も行われた。昭和25年10月10日には第1回南佐久郡駅伝大会が開催された。

このような中で、陸上競技の石井賢治（白田高校一慶応大）が5,000、10,000mで県記録を作った（昭和26年）。また、石井は昭和27年1月3日からのサンシルベスト国際競技大会（ブラジル）に出場するなど国際的な選手となった。

昭和26年11月15、16日と行われた第1回県下縦断駅伝大会では、南佐久チームがチームワーク良く第2位となった。昭和27年には第1回南佐久郡バドミントン大会を開催し、郡内のスポーツ活動が大きく飛躍し、地域住民のスポーツへの関心の高まりが、生活の向上へとつながったのである。

3 その後のあゆみ

当地域の特性を生かしたスケートは、古くから地域の町村で協議会がもたれており、高校でも昭和20年代から松原湖での中央の大学生の合宿、協議会に刺激されてクラブ活動も活発になり、高見沢初江（南佐久実高＝現小海高、30年1月全日本スピードスケート選手権優勝、33年世界スピード選手権8位、35、39年冬季オリンピック